

もう一つの発明

人工肛門保有者がシートベルトをしやすくするために開発



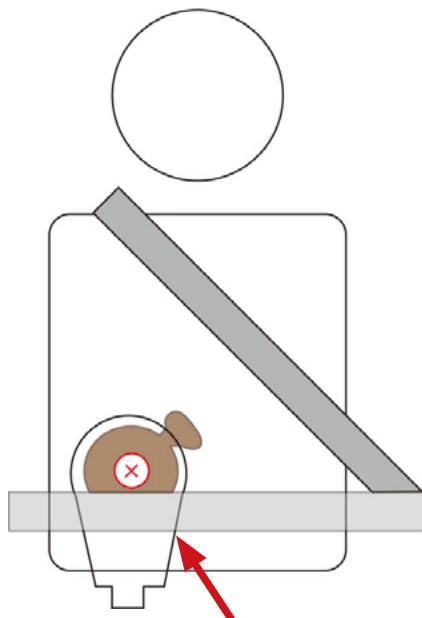
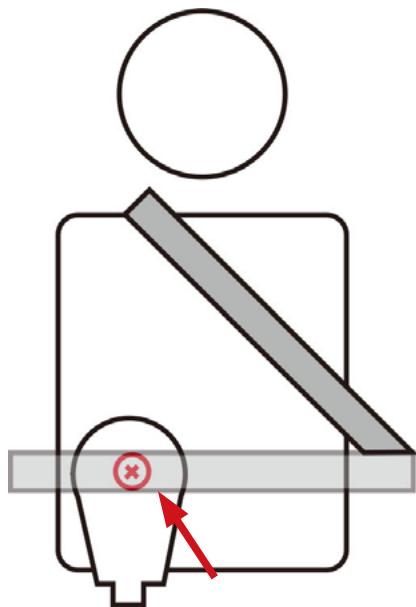
シートベルトガードクッション

試行錯誤を繰り返している時の試作品



直接ストーマに当たる

ハウチ（便袋）の流れを
妨げ、漏れの原因になる



必要は発明の母

7つ病気を持つ男 <https://ストーマ.nagoya>

2012年3月

心臓バイパス手術



2012年5月

食道がん手術 ステージ1B



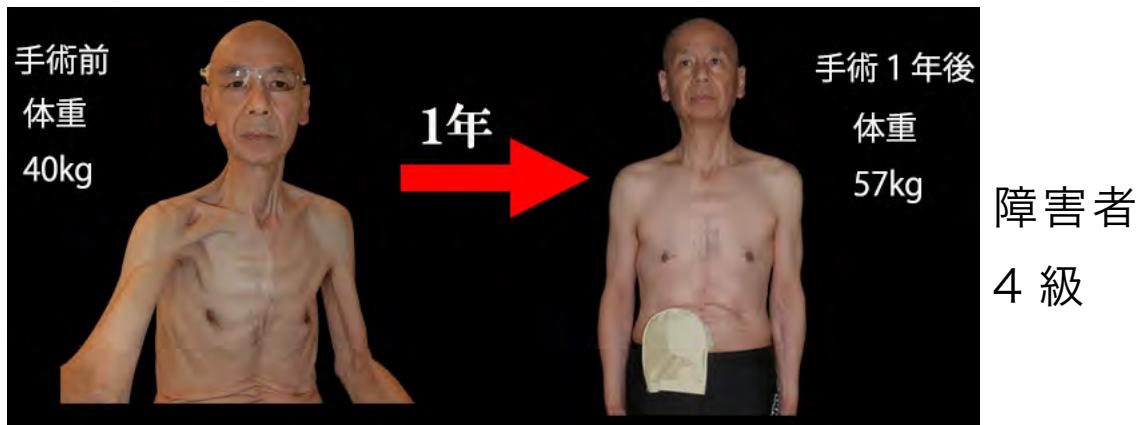
2012年9月

静脈血栓から肺梗塞



2013年12月

潰瘍性大腸炎 10年 のち 大腸全摘手術 永久ストーマ(人工肛門)になる



病気は早期発見・早期治療ば命は落とさない

疑わしきは精密検査で確認。

1. ドクターXは、いない。医者は、誤診、見落とし、をする。
2. 1つの検査や画像診断だけでは、正しい診断はできない。
3. 科学的に問題ないと判断できるまで納得できる精密検査をする。
4. 「私は、大丈夫」と思わない。
5. 病気は医者と患者一緒に、見つけ、治療、自己管理をせよ。

オストメイト（人口肛門・人工膀胱保有者）のために
あい工房と共同開発（2017年9月から販売）、
同じ悩みを持つオストメイトのために
特許申請は取得はしていません。

障害者を理由にシートベルトをしなくても良い理由にはならない。
シートベルトは命を守るベルト、快適で使い易いものでなくてはならない。
信念で作り上げたシートベルト用ストーマガードクッションを開発



ストーマは再手術で作り直しは出来るが
死んだら生き返らせることはできない
命を守るシートベルト